

セ ン サ ー

2002年 1月号 第35号

東京温度検出端工業会 会報

年頭のご挨拶

2002年1月

会 長 荻 野 紘 一

会員の皆様、明けましておめでとうございます。2002年を気分を新たにお迎えのこととお慶び申し上げます。平素は当会活動にご協力ご理解を戴きありがとうございます。

新世紀元年を総括してみますと、概して暗いニュースばかりが目につく年でありました。ITバブルの崩壊、狂牛病騒動、9.11のアメリカ同時多発テロ事件による産業界へのさまざまな影響、構造改革による痛み、等と日本経済を覆う不況の間は濃くなる一方でした。あれだけでもはやされたIT分野のアメリカでの減速が一気に全世界に波及し、日本でもこの分野の失速が大きく影響し、大手電機メーカーの相次ぐ工場閉鎖や、人員削減計画を柱とするリストラに着手し、系列や国境を超えた協業、事業の統合や再編が加速されました。このような業況は夏場から一気に進み、未曾有の構造不況に陥りました。これに同時多発テロが追討ちをかけ、9月12日の日経平均株価は17年ぶりに1万円を割り込みましたし、完全失業率は11月には5.5%と過去最悪となり、その数は350万人を記録しました。また、企業の倒産も上場企業で12件を数え、その負債総額も約2兆3千億円という膨大なものとなりました。

一方、新世紀の科学技術創造立国に向けて、その政策の推進体制が一新され、5年間で24兆円の国家予算を投入し、IT、ライフサイエンス、環境、ナノテクノロジー、の研究開発が重点的に推進されることとなり、新たな始動も見られました。

12月には、名古屋大学の野依教授のノーベル賞受賞、皇太子ご夫妻に待望の新宮さまが誕生され、暗い話題が多い中で数少ない明るいニュースとなりました。スポーツ界ではイチロー選手のアメリカ大リーグでの大活躍などは、私達の気持ちを明るくさせてくれました。

環境面でも、循環型社会関連法が相次いで改正施行され、文字どおり“リサイクル元年”となりましたし、そのキーワードである“3R”(リデュース、リユース、リサイクル)は流行語ともなりました。国際的な取り組みは、COP7で京都議定書の運用ルールをめぐる最終合意されたことで、2002年の発効を目指して一步を踏み出しました。

概して、進まぬ構造改革や不良債権処理、止らぬデフレや構造不況で皆右往左往し、テロという大激震に見舞われ、あらゆる面で激動の年と言えましょう。

当会の行事におけるエポックメイキングは、5月の総会での新理事選出（定款変更後の）と定款の一部変更および第2回の“温度計実務講座”の完了などがあげられます。特に実務講座では若い方々が熱心に受講され、今後各社において更に研鑽を積まれ、業界のみならず、国の産業界へ大いに寄与されることを望んでおります。

私のライフワークの一つとなった“歩く”を通してまたまた紙面のスペースをいただき、中山道について少し触れさせていただきたく思います。

平成12年3月、日本橋をスタートし京都の三条大橋へ平成13年4月にゴールしましたが、今回は、各宿の入口から出口までを歩き、宿間を車などを利用して移動する方法で行った訳ですが、六十九次の宿それぞれの歴史や文化に感銘を受けますが、なかでも、贅川宿より馬籠宿にいたる所謂木曾十一宿は特にその自然景観もさることながら、歴史的文化遺産の色濃く再現された宿として魅惑的であります。

妻籠宿では、昭和46年7月に制定された“妻籠宿を守る住民憲章”は重要な文化財の保存と、自然環境の保護について地域住民が一丸になっての運動をおこし、推進して制定されたもので、30年以上も前にこの様な環境保護運動で妻籠宿の保存整備がされてきたことに驚かされます。

“木曾路はすべて深い山の中である。”に始まる“夜明け前”は、馬籠宿の庄屋、本陣、問屋、を兼ねた家に生まれた島崎藤村の大作として有名ですが、この馬籠宿の本陣は現在島崎本陣跡として冠木門があり、内には藤村記念館と記念堂があり裏には記念文庫があって“夜明け前”などの原稿や初版本などが展示されています。この“夜明け前”は無論皆様ご存知ですが、藤村の実家そのままの設定で青山半蔵の生涯を通じて、幕末から明治維新、文明開化の時代にかけての山深い宿場とそこに生きる人々、更には日本そのものの変遷と苦悩を描いていく小説で、半蔵のモデルは藤村の父の正樹その人です。

この小説の時代背景は現在のそれとは違いますが、激変する時代に生きるという点では共通点もありましょう。懸命に自分の信ずる道を追い求める半蔵に、ある意味で共感を持つのです。現在の混乱期に当時の宿の人達の労苦を思いながら、私達も自分の信ずる道を懸命に生きて行きたいものです。

最後に、皆様方にとりまして本年はより良き年となりますよう、祈念致しまして年頭のご挨拶と致します。

以上

会の動き

◎平成13年1月24日 第41回「技術懇談会」参加者 25名。

温度標準の不確かさの見積りと考え方、田中貴金属工業(株) 浜田登喜夫氏。
極細シースK熱電対の温度特性について、都立産業技術研究所 尾出 順氏。

◎平成13年2月2日 理事会。総会の日程について。

新春懇親会。白山「五右エ門」において、参加者 30名。

- ◎平成13年 2月24日 「温度計実務講座」 第2回。参加者 23名。
熱電対と補償導線について、小川実吉氏。
- ◎平成13年 4月12日 理事会。総会に提出する議案について審議、決定した。
- ◎平成13年 4月18日 「温度計実務講座」 第3回。参加者 23名。
測温抵抗体について、小川実吉氏。
- ◎平成13年 5月25日 総会。第27期事業報告、会計報告、第28期事業計画を審議のうえ承認。
定款の改訂を審議、可決。
理事の改選期にあたり新定款により理事を選出した。
新理事、
石福金属興業㈱、市村金属㈱、井上金属㈱、大手金属㈱、助川電気工業㈱、
相互電機㈱、田中貴金属販売㈱、㈱ニッカトー、二宮電線工業㈱、
林電工㈱、山里産業㈱。
理事会の互選により会長に、相互電機㈱社長 荻野紘一氏を、副会長に林電
工㈱ 林 正樹氏を選出した。
総会終了後、懇親会を行った。参加者 32名。
- ◎平成13年 6月 8日 第42回「技術懇談会」 参加者 28名。
温度計測の基礎、玉川大学教授 後藤昌彦氏。
温度測定とその不確かさ、都立産業技術研究所 尾出 順氏。
温度計測におけるトラブル事例、石福金属興業㈱ 宮下誠一氏。
- ◎平成13年 6月 9日 第43回「けんたん会」 参加者 9名。
フレンドシップカントリークラブにおいて。
優勝者、大手金属㈱ 松谷俊昭氏。参加者の平均スコア 105.8。
- ◎平成13年 6月21日 「温度計実務講座」 第4回。参加者 22名。
保護管および温度測定の実際について、小川実吉氏。
- ◎平成13年 7月 5日 理事会。任期中2年間に行う予定の事業について担当する理事を決めた。
- ◎平成13年 9月 6日 理事会。12月までの事業について審議した。
見学会を11月中旬、小名浜製錬所㈱を中心に茨城県方面とする。
11月17日に「けんたん会」を行うことを決めた。
- ◎平成13年 9月20日 「温度計実務講座」 第5回。参加者 20名。
その他の温度計について、小川実吉氏。
- ◎平成13年11月14日 見学会。参加者 26名。
国際温度標準センター（旧計量研）
温度標準室、放射温度計標準室、測光量標準室を見学。
小名浜製錬所㈱
銅の生産工程を全般にわたり見学させていただいた。
- ◎平成13年11月17日 第44回「けんたん会」 参加者 8名。
取手国際カントリークラブにおいて。優勝者 林電工㈱ 秀城茂雄氏。
参加者平均スコア 101.1。
- ◎平成13年11月29日 「温度計実務講座」 第6回。参加者 27名。
受信計器及び温度計の校正について、小川実吉氏。

今回で第2期、温度計実務講座を終了した。

修了式及び懇親会を行った。4回以上の出席者に修了証を伝達した。

今回は23名でした。

◎平成13年12月6日 理事会。秋の行事の報告、新春懇親会の日程及び場所について審議。慶弔費について決めておく必要があるのではないか、との提案があり、内規として作成する方向で事務局で案を作成することにした。

以上

編集後記

景気の動向は悪化の一途をたどっています。どこまで落ち込むのでしょうか。新年の挨拶回りも一通り終り、30人ほどの人とお会いすることができました。今後の見通しについては、今が底であるという人と、まだまだ落ち込むのではないかとという人が半々のように思いました。

景気の悪さは、雰囲気だけでなく、工場の一時帰休という具体的な形であらわれています。週に4日休みという会社があるという話もありました。かつてこのようなことはあったでしょうか、本当に深刻です。倒産件数も戦後2番目、今年はさらに上回りそうという見通しが報じられています。

はたして出口はあるのでしょうか。世界全体の経済活動がこのまま永遠に縮小し続けるということは無いはずですから、どこかで底を打つものと思いますが、それがいつなのか、今年なのか来年なのか。大方の見方は今年後半には上向き始めるのではないかと見ているようですが、はたしてどうでしょうか。その頃にはアメリカ経済が上向くだらうということ以外に根拠はないようにみえます。

不況が続き、信用リスクは高まり、身近かの企業の倒産も増えています。ここはただひたすら、何とか持ちこたえて乗り切っていこうと思うばかりです。

平成14年1月発行 No.35

発行所 東京温度検出端工業会

事務局

東京都文京区本駒込6-5-5 (林電工株式会社)

電話 3945-3151